

駒澤大学学術機関リポジトリ

駒澤大学図書館

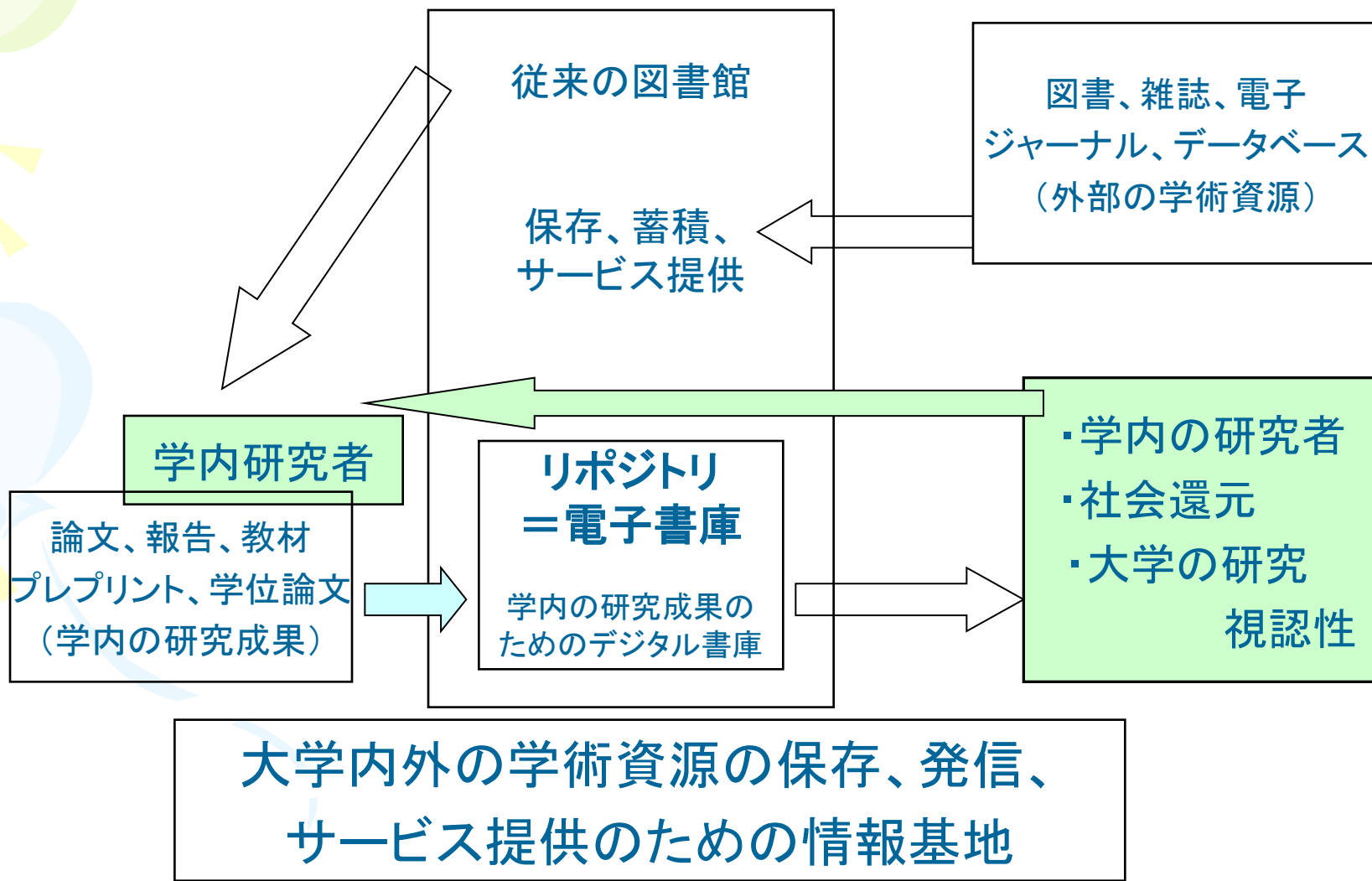
2007. 10. 31

学術機関リポジトリとは

- ・大学における知的財産である、教育・研究の成果（学術論文・学術資料・e-ラーニング等）をデジタル形式に書誌情報を付与して電子データで蓄積・保存、インターネットで公開するためのサービス。<図1>
- ・図書・雑誌のように恒久的に保存を目指している。
- ・研究成果は図書館のサーバシステムに保存して公開する。（このサーバシステムをリポジトリと呼ぶ）
- ・リポジトリは「電子的な保存書庫」を意味する。保存書庫は先生方の研究成果のための電子的図書館。
- ・現在、世界中の大学で導入が進められている。<図2>

図1

リポジトリとは・・・



現在900以上

● 国内の機関リポジトリ一覧

北海道大学、帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学、弘前大学、東北大学、山形大学、筑波大学、群馬大学、千葉大学、埼玉大学、東京大学、東京外国語大学、東京学芸大学、お茶の水女子大学、一橋大学、横浜国立大学、新潟大学、名古屋大学、三重大学、金沢大学、信州大学、京都大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、奈良教育大学、奈良女子大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、九州大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、琉球大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学、法政大学、早稲田大学、関東学院大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄国際大学、日本貿易振興機構アジア経済研究所etc.

● 海外の機関リポジトリ一覧

Registry of Open Access Repositories (ROAR)、Directory of Open Access Repositories - OpenDOAR、List of Japanese repositories Directory of Open Access Repositories -OpenDOAR etc.

学術機関リポジトリの有用性

- ・学外の学術雑誌に掲載した査読済みの学術論文および学内の紀要・論集・報告書等の研究成果を世界に発信することができる。(google, JuNii+などの検索対象となる)
- ・研究者の知名度の向上。
- ・オープンアクセス(可視性)の向上が得られる。
大学組織の研究成果・業績の一覧機能および発信が可能となり、研究の可視性がアップする。
- ・紀要などの完全電子データ化ができれば印刷・保存のコストが削減される。
- ・研究者の研究成果が永久保存。
大学が責任を持って保存することが可能となる。

駒澤大学学術機関リポジトリの意義

- ・駒澤大学の研究成果を集約し公開することにより、大学としての特色を広めることとなる。
- ・無償公開することにより、大学としての社会への説明責任を果たす。
- ・現在存在する駒澤大学電子図書館の発展系としての存在感が増大する。

収集コンテンツ

- 学術論文(査読済み学術論文)
- 紀要・論集等の研究報告書
- 科研費報告書やCOE関連の報告書
- 禅籍・仏書画像の所蔵資料
- 貴重図書デジタルデータ
- 駒澤大学史
- プレプリントやディスカッションペーパー、学会発表資料
- 学位論文
- 授業に使用した教材、資料、電子教材 etc.

・・・教育・研究に伴う知的活動の
成果がリポジトリの対象・・・

著作権（学術雑誌掲載編）

- 大手出版社の多くが学術雑誌掲載論文のポストプリントやプレプリントのリポジトリの公開を許諾しています。
 - ・・・Elsevier、Blackwell、Springer、Wiley、Natureなど著名な出版社が実施・・・
- これらの出版社が公開の許諾をしているのは、「著者最終稿」と呼ばれる原稿です。〈図3〉
- 電子ジャーナルで閲覧できる「出版社版」のPDFや抜き刷りなどとは異なるものです。
- 原則として、頂いた「研究成果」は図書館が著作権上の許諾条件を調査した上で公開します。
- 国内においても学会を中心に許諾条件をデータベースによる

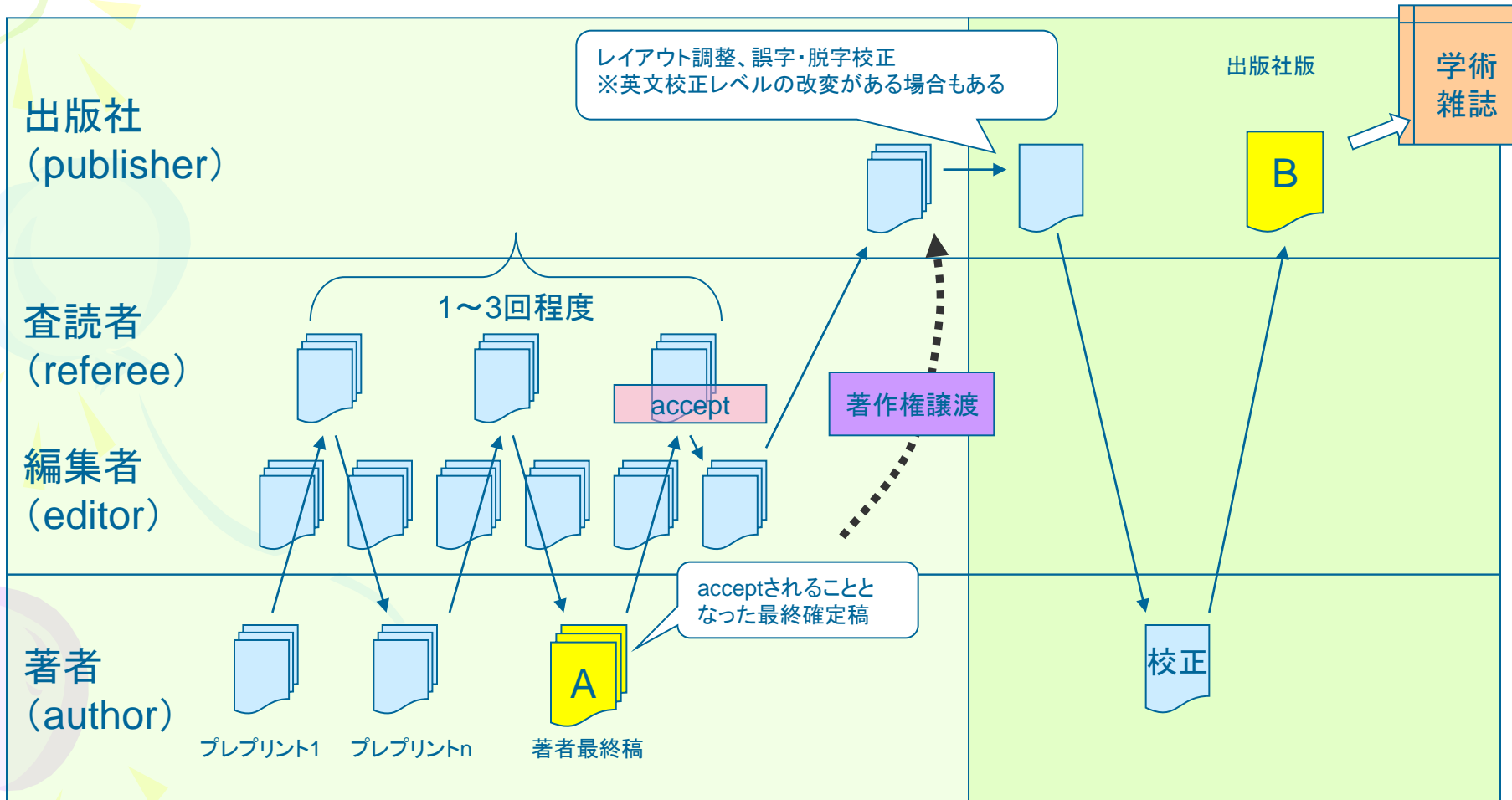
図3

編集・査読プロセスの例

<学術雑誌> 北大提供

原稿形式(テキスト+図表)

雑誌掲載レイアウト



構築にあたって

● 学内説明会の開催

学長を含む教員事務部長へのプレゼン、大学運営権者の決済得る、図書館委員会、学部へのプレゼンの実施

プロジェクトの設置

教務部、総合情報センター、図書館等の関係部署で体制を構築、事務局は図書館が行う。

● 運用指針等規程の整備

例) 駒澤大学学術機関リポジトリ運用指針
駒澤大学学術機関リポジトリ運営委員会

システムの構築

- サーバ

電子図書館システムのリプレースに合わせて実施する。予算は補助金申請を対象としたリースを予定。

- ソフトウェア

Dspaceを現在検証中。

(オープンソースで国内導入実績の多く、カスタマイズが容易)

最後に

- 学術的情報共有は世界的な潮流であり、本学も研究成果を提供していく立場にある。
- 駒澤大学には提供しうる研究成果を持っている。
- 機関リポジトリの様な先進的な事業に取り組んでいく大学でなければ、これからの生き残りは難しい。

ご清聴ありがとうございました。アンケートのご協力をお願いします